



入村時間

- 4月～10月 8時30分～17時
- 11月～3月 8時30分～16時30分
- 年中無休

駐車施設

- 無料駐車場
- バス10台、乗用車200台

入村料()内は団体料金(25名以上)

一般800円(700円) 高校生500円(400円) 小中学生300円(200円)

四国村ギャラリーセット入村券

一般1,000円 高校生600円 小中学生450円

★全清潔開催中は次の料金になります。()前売券

一般1,200円(1,100円) 高校生700円(600円) 小中学生500円(450円)

- ※障害者および介助者1名は規定料金の半額。
- ※高齢者割引はございません。
- ※幼稚園児は団体の場合のみ150円。

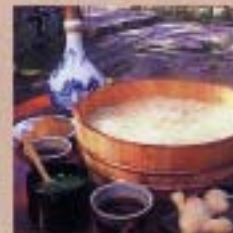
明治建築のモダンQ欧風の喫茶



① ティールーム 異人館

明治30年にイギリス人ワサダワン氏の住宅として建てられた。内部は神戸の明治建築の洋館の特徴をよくあらわしている。
TEL (087) 843-3114

建築の味、評判の平打ちうどん



② うどんのわら家

茶屋の敷家を移築したうどん店。うどん本来の製法と他にはない、出汁の味を忠実に守り続けている。
TEL (087) 843-3116

交通アクセス

- 高松自動車道高松中央ICから北8km。
- 高松空港から15km。
- JR高松駅が56km。
- JR屋島駅から徒歩10分。
- 琴電屋島駅から徒歩5分。



財団法人 四国民家博物館

〒761-0112 香川県高松市屋島中町91
Tel.087-843-3111 Fax.087-844-1831
<http://www.shikokumura.or.jp/>

⑤ 旧 河野家住宅

日本の原風景、
ふるさとに出会える場所。

昔の暮らしが、先人たちの知恵が
息づいている——
それが「四国村」です。

四国各地から移築された民家33棟が
当時のままの姿で復原され、
屋島の南山麓の林やお花畑の中に
点在しています。

その二画に自然と調和した小さな
美術館があり、美との語らいがあります。
四国村は、忘れかけていた
日本のふるさとに出会える場所です。



来たことのある、はじめての場所。

SHIKOKUMURA GALLERY

⑦ 四国村ギャラリー

絵画、彫刻、仏像、青銅器など幅広い美術品を展示したギャラリー。設計/安藤忠雄氏(ギャラリーセット入材料でご覧いただけます)



散策ルート

基本ルート

村全体をご覧いただけます。所要時間は1~2時間ですが、時間のない方、特定のものにご関心のある方など、ご遠慮なくお申し出ください。入口で係員がご説明します。

※イラストマップに赤色矢印で表示

花や木々が美しいエリア

季節によりさまざまな花や木々が美しい場所です。

- 1月~3月 ロウバイ(河野家蔵) ウメ・スイセン(椿蔭し小屋前)
- 4月~8月 サクラ(各所) ボタン・シャクナゲ(お花畑) チューリップ(増台)
- 7月~9月 古代ハス(染が池) キョウチクトウ(各所)
- 10月~12月 パラ(ギャラリー・増台) サザンカ(各所)

気分を変えてちょっとひと休み

村内の散策の間に、高台にある四国村ギャラリーへどうぞ。常設展のほか随時企画展を開催しています。美の世界に触れたあとは、市内を一望できる水景庭園のカフェでお寛ぎください。<カフェ営業=季節限定>



① 旧 鍋島燈台退息所
日本でもっとも早い時期につくられた燈台の一つ。退息所とは燈台の官舎のこと。明治4年(1871)英国の技師プラントンによって設計された。洋風と和風の折衷様式が珍しい。

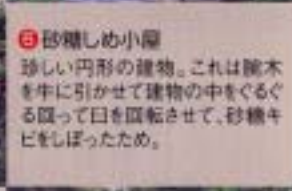


⑤ 南予の茶堂
愛媛県鬼北町にあったもので、村人の信仰の場であるとともに、湯路など通行人の休憩所でもあった。まつられている地蔵菩薩は波政之の作で、瀬戸内家藏尼によって開設され「遊庵」と命名された。

④ 旧 下木家住宅
剣山の北斜面、つるぎ町にあった山村農家である。太い梁を組んだ空間構成は力強く、魅力的である。冬は二つの田炉裏で暖をとっていた。



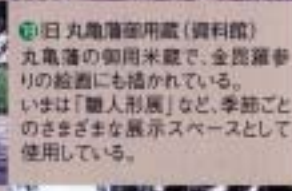
⑥ 砂糖しめ小屋
珍しい円形の建物。これは腕木を牛に引かせて建物の中をぐるぐる回って目を回転させて、砂糖キビをしぼったため。



③ 小豆島農村歌舞伎舞台
農村歌舞伎舞台は四国の村々に広く分布していた。村人は祭りのさいには激しい労働から解放されて歌舞伎に興じ、明日の活力を養った。定員1,000人の屋外劇場。



⑧ 旧丸亀藩御用蔵(資料館)
丸亀藩の御用米蔵で、全長雁歩りの絵巻にも描かれている。いまは「職人形展」など、季節ごとのさまざまな展示スペースとして使用している。



⑨ 匠油蔵、鎌室
東かがわ市引田の醸造家である永年使用されてきたもの。天保9年(1838)に作られた仕込桶や、押槽(おしぶね)など昔の用具を使って醤油(の)の作業場を再現した。



- 国指定文化財・登録文化財
- 県または市指定文化財



流れ坂 彫刻家・流政之氏作

① 浜田の泊屋 (入村券売場)

うどんのわら家

⑩ ティールーム 異人館

出口